

令和8年6月22日

甲府市議会議長 岡 政 吉 様

環境水道委員長 山 田 弘 之

### 所 管 事 務 調 査 報 告 書

環境水道委員会におきまして、甲府市議会基本条例第18条第4項に基づき、所管事務調査及び政策研究のテーマを定め、調査・研究を進めてまいりました経過と結果について御報告いたします。

令和7年7月25日の委員会におきまして、地球温暖化を食い止めるためにはごみの減量によるCO<sub>2</sub>の排出量削減が欠かせないものであり、この実現には適切なごみの排出と分別収集が大切であると考え、今期の調査・研究テーマを「ごみの収集について」に決定いたしました。

同年9月4日の委員会におきまして、当局より本市のごみの収集に係る取組状況について説明を受け、質疑を行い、ごみの収集体制や生活系ごみの量の推移、危険物及び処理困難物に対する取組状況などについて理解を深めました。

同年11月5日から7日までの日程で、神奈川県座間市、厚木市、愛知県安城市、岐阜県美濃加茂市への行政視察を実施し、ごみのDX収集やEVごみ収集車導入事業、戸別収集モデル事業、プラスチック資源の一括回収・リサイクルの取組、ヤギによる除草事業について調査を行いました。

同年12月22日及び令和8年5月8日の委員会におきまして、行政視察の調査結果を踏まえて「座間市では粗大ごみの回収の多くはLINEを使った申請によるものであり、このようなシステムが構築できると効率的な収集につながる」、「剪定枝をバイオマス燃料として活用する取組なども参考にすることで、分別されたごみをしっかりと再利用できる仕組みを確立することが環境行政の一番の課題である」、「環境センターやリサイクルプラザ、上下水道局の敷地内でヤギによる除草ができれば、甲府市のイメージアップにもつながる」、「ヤギによる除草は米倉山での実例があるが、子どもの環境意識の醸成、ごみの問題を自分事として捉えることにつながる」、「EV収集車による収集は、電気の供給が断たれた際に回収できなくなるなどの課題もあるため、慎重に調査・研究を進めていく必要がある」などの意見がありました。

同年5月15日には「地球温暖化対策としてのごみ減量化などの取組について」をテーマとした甲府市地球温暖化対策地域協議会の方々と市民と議会の交流会において「学校や家庭における子どもたちへ教育を通じて、ごみの分別など環境に対する意識を高めていくことが重要である」、「教育委員会などのバックアップをいただきながら、多くの小・中学生に環境問題に関する作文コンクールへ参加してもらい、文章を書くことで環境問題への関心をさらに高めていくことができるのではないか」、「目標値をしっかりと定め、ごみの減量や分別に取り組んでいく仕組みづくりが必要ではないか」など、様々な観点からのご意見をいただきました。

同日開催した委員会におきまして、市民と議会の交流会を踏まえて「子どもの頃からごみの分別や環境問題について自分事として捉えるようになることが大切であり、環境問題に関する作文等を通じて学ぶことができる」、「小・中学校において環境教育の授業を増やすのは学校の負担となり難しいが、国に対して環境教育の授業数を増やす意見書を提出することも考えられる」といった意見がありました。

同年6月4日の委員会におきまして、これまでの議論を踏まえて、「新たなリサイクルの確立」、「意識啓発と子どもに対する環境教育」が肝要であるとの認識を委員間で共有いたしました。

環境水道委員会といたしましては、「新たなリサイクルの確立」として、適正なごみの排出と効率的な収集に向け、ごみの排出量や資源化率の目標値達成に向けより一層の取組を行うこと、また、剪定枝のバイオマス燃料への転換や海洋汚染につながる懸念のある製品プラスチックの分別回収等、新たな分別回収を今後検討すること、「意識啓発と子どもに対する環境教育」として、市民の意識啓発はもとより、特に子どもに対する意識醸成が必要であるため、環境問題を自分事として捉えられるよう、作文コンクール等環境教育を促進するような取組を検討すること、また、ヤギによる除草事業のように環境負荷が少なく、動物と触れ合うことを通じて市民や子どもたちの意識醸成につながるような取組を検討することが必要であると考えます。

当局におかれましては、本調査・研究の結果を参考としていただきながら、市民の生活環境の向上と持続可能な資源循環の実現に向け、諸施策を積極的に推進されることを期待し、報告いたします。